

大本山永平寺：承陽殿

承陽殿は、曹洞宗の開祖である道元禪師（1200–1253）の真廟である。寺院では、開祖のお堂は開山堂と呼ばれるのが一般的だが、この堂名は、明治天皇（1852年～1912年）が1879年に道元禪師に授けた諡号に由来している。天皇は道元禪師を「高祖承陽大師」と称した。お堂の再建は1881年である。

主祭壇には道玄禪師の大きな像が納められている。道元禪師の御尊像の横には、後継者4人の住持の像が並んでいる。孤雲懷奘禪師（1198–1280）、徹通義介禪師（1219–1309）、義演禪師（d. 1314）、義雲禪師（1253–1333）である。祭壇の上のフリーズには地元の大工によって彫られた精巧な彫刻が施されている。毎朝、選ばれた修行僧（雲水）のグループは、ほかの修行僧より早く起き、彫像のためにお茶を準備する。この毎日のお供えは、住持への教えへの敬意と感謝を示したもので、この習慣は永平寺の第二住職の懷奘禪師によって確立されて以来、途切れることなく続いている。